

2022年8月18日

報道関係者各位

SBI いきいき少額短期保険株式会社
[関東財務局長（少額短期保険）第8号]**SBI いきいき少短 “地震・防災”に関するアンケート調査を実施****9月1日は「防災の日」！地震・防災対策“特にしていない”が約3割
～「地震」で自宅が被災した際の再建費用の備え方、年代別にちがい～**

SBI いきいき少額短期保険株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：新村 光由、以下「当社」）は、9月1日「防災の日」に合わせて、持ち家（一戸建て、分譲マンション）にお住まいの全国20歳以上の方を対象に“地震・防災”に関するアンケート調査を実施し、1,114名の方から回答を得ました。

この「防災の日」を通じて、皆様の日常における防災意識の向上、対策の進展があることを願っております。概要は以下の通りです。

※本調査は、地震補償保険を販売するSBI リスタ少額短期保険株式会社が2012年から実施し、現在は当社と共同で保険引き受けを行っていることから、当社で継続して実施しているものです。今回で累計11回目の調査となります。

◆アンケート調査結果のサマリー（参照ページ）**地震・防災について**

- ① 現在、不安を感じる災害は「地震・津波」が最多。
「特にない」は2年連続で上昇傾向。（別紙P.1）
 - 「感染症（32.9%）」を選択した割合は昨年より6.9ポイント上昇した。
 - 「特にない」を選択した割合は2年連続で上昇した。
- ② 近い将来、住んでいる地域で「大地震（震度6強以上）が発生すると思う」人は60.9%。
大地震（震度6強以上）が発生した場合、「自宅が大きな被害を受けると思う」人は66.2%。
ともに昨年より上昇。（別紙P.2）
 - 「大地震が発生すると思う（どちらかといえばを含む）（60.9%）」は、昨年より4.7ポイント上昇した。
 - 「自宅が大きな被害を受けると思う（66.2%）」は、昨年より9.3ポイント上昇した。
- ③ 大地震（震度6強以上）が発生した場合、避難を考えるタイミングは「建物が被害を受けたら」
「インフラが止まったら」が多く、実際に被害を受けてから避難を考える傾向に。
自治体から促されても、避難を考えない人が6割強。（別紙P.5）
 - 大地震が発生した場合、「自治体から避難を促されたら」避難を考えると回答した方は35.0%となった。
「自治体から避難を促されたら」を選択していない方（65.0%）が避難するタイミングは、「インフラが止まったら（電気・ガス・水道）（43.9%）」「建物が被害を受けたら（破損・ヒビなど）（43.0%）」を選択した割合が高い。
- ④ 家庭で行っている地震・防災対策は「非常用の食料・水の準備」が最多。
一方、「特に対策をしていない」が約3割。（別紙P.6～7）
 - 「非常用の食料・水を準備している（45.8%）」が最も多い。
 - 「特に対策をしていない」と回答した方は30.4%となった。

「地震」で自宅が被災した際の再建費用について

- ⑤ 自宅再建費用の備えは「保険や共済等の補償」が7割弱。（別紙 P.8～9）
- 「地震保険（46.1%）」「共済等の地震保険以外の補償（21.0%）」を合わせて67.1%となった。
 - 年代別では、20代では昨年と比べて「地震保険（40.8%）」で備える割合が3.9ポイント上昇、「共済等の地震保険以外の補償（36.8%）」では7.5ポイント上昇した。
- ⑥ 現在加入している「保険や共済等の補償」で「不十分だと思う」が約4割。（別紙 P.10）
- 「不十分だと思う（どちらかといえばを含む）」が41.1%となった。
 - 年代別では、20代で「十分（どちらかといえばを含む）」が62.5%、年代が上がるにつれ割合が逆転していき、60代以上では「不十分（どちらかといえばを含む）」が62.1%となった。
- ⑦ 「保険や共済等の補償」で備えているものは、「当面の生活再建費用」「自宅の再建費用」がともに約4割。（別紙 P.11）
- 「当面の生活再建費用（42.6%）」「自宅の再建費用（42.2%）」がほぼ並んだ。
 - 年代別では、20代は「当面の生活再建費用」、30代以降では「自宅の再建費用」が最も多い。

毎年9月1日が「防災の日」であることについて

- ⑧ 8割の方が「防災の日」を認知。（別紙 P.13）
- 「防災の日」を「知っている」「聞いたことがある」と回答した方が、合わせて80.0%となった。

◆アンケート調査の概要

項目	内容
タイトル	“地震・防災”に関するアンケート調査
調査期間	2022年7月22日（金）～2022年7月24日（日）
調査方法	インターネットリサーチ
調査対象	性別：男女 年齢：20歳以上 住居形態：持ち家（一戸建て・分譲マンション） 地域：全国（宮城県、福島県は、調査期間において災害救助法適用地域のため対象外）
有効回答数	1,114名
実施会社	株式会社ジャストシステム

※本調査結果の百分率表示は小数点第2位で四捨五入を行っているため、合計しても100%にならない場合があります。

【会社概要】

- 会社名：SBIいきいき少額短期保険株式会社
- 会社紹介：当社は、東証プライム市場上場「SBIホールディングス（株）」のグループ会社です。「シンプルでわかりやすく」「保険料は手ごろに」という、お客様のご要望に応える保険商品を開発・提供しています。死亡保険、医療保険はシニア層を中心に、ペット保険は犬・猫の病気やケガが気になる飼い主様に、幅広く支持されています。万が一の地震に備える地震補償保険で皆様の暮らしもサポートします。
- 所在地：東京都港区六本木1-6-1
- 設立年月日：2007年7月3日
- 資本金：36,000千円
- 事業内容：少額短期保険業（販売商品：SBIいきいき少短の死亡保険、SBIいきいき少短の医療保険、SBIいきいき少短の持病がある人の死亡保険、SBIいきいき少短の持病がある人の医療保険、SBIいきいき少短のペット保険、SBIいきいき少短の地震の保険）
- URL：<https://www.i-sedai.com>

【お問い合わせ先】 SBIいきいき少額短期保険株式会社 経営企画部 企画グループ
TEL：03（6856）45376 / E-MAIL：ikiiki_pr@i-sedai.com

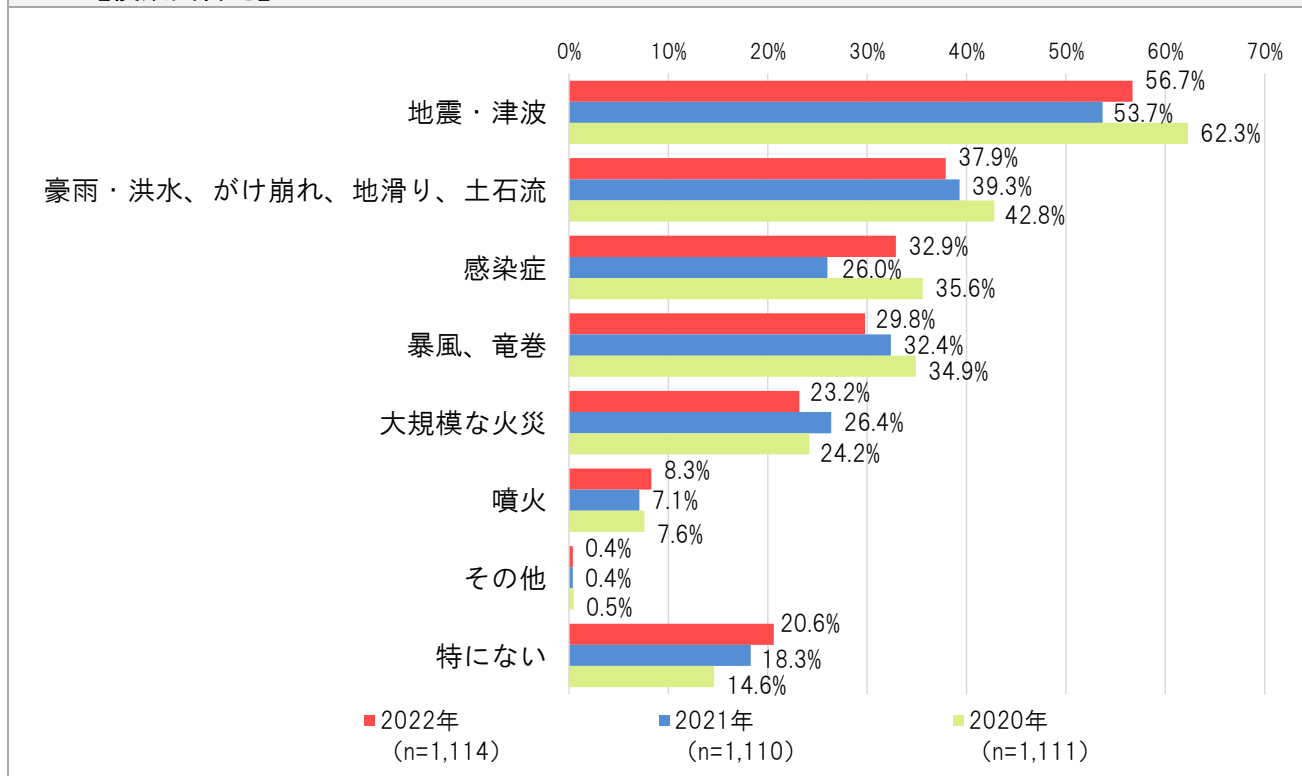
■別紙 “地震・防災”に関するアンケート調査結果の詳細

【1】現在、不安を感じる災害について（Q1.参照）

- 「地震・津波（56.7%）」が過半数で最も多い。
- 「感染症（32.9%）」が昨年から最も上昇。
- 「特にない（20.6%）」が2年連続で上昇傾向。

Q1. あなたがお住まいの地域で、現在不安を感じている災害はどのようなものですか？

【複数回答可】



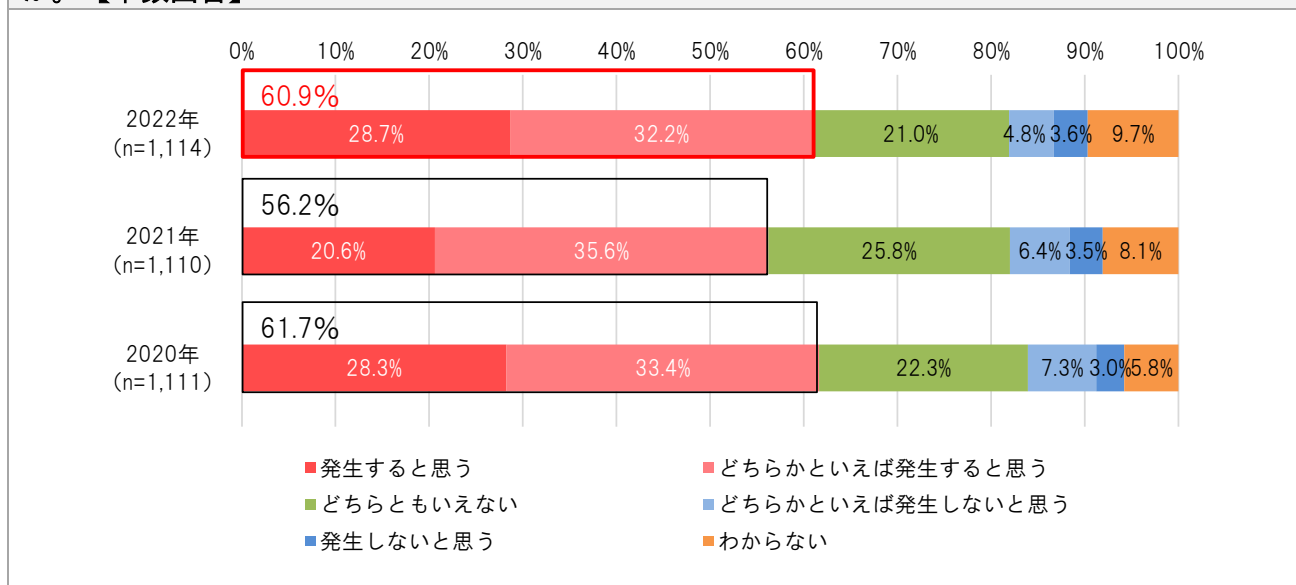
**【2】大地震（震度6強以上※）発生と、自宅が被害を受ける可能性について
（Q2. Q3. Q4.参照）**

※2022年実施分より明記

震度6強の目安…人が立っていることができず、屋内では固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える状態

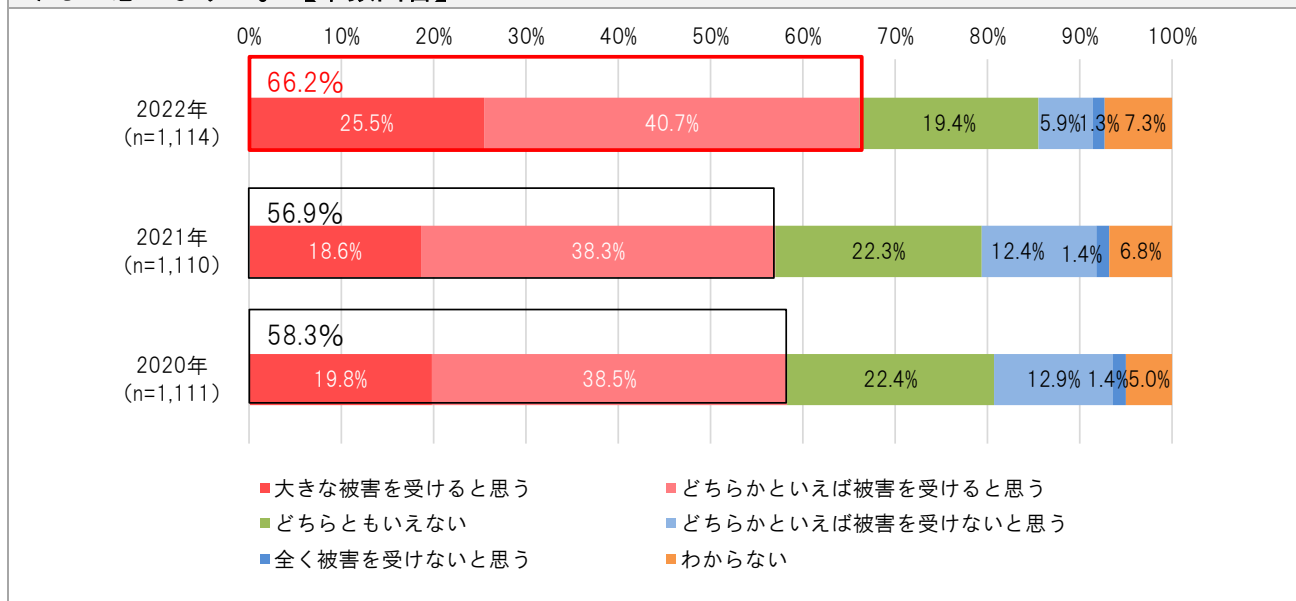
- 「発生すると思う（どちらかといえばを含む）」が60.9%で、昨年（56.2%）と比べて4.7ポイント上昇。

Q2. 近い将来、現在あなたがお住まいの地域で大地震（震度6強以上）が発生すると思いますか。【単数回答】



- 「自宅が大きな被害を受けると思う（どちらかといえばを含む）」が66.2%で、昨年（56.9%）と比べて9.3ポイント上昇。

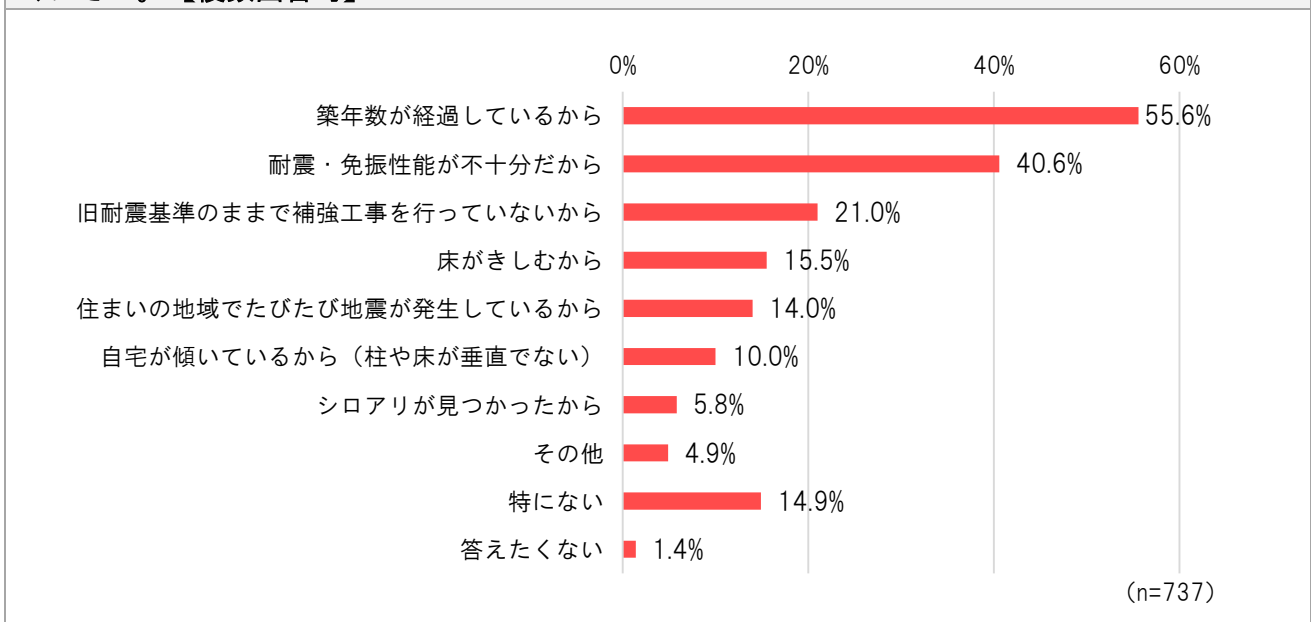
Q3. 大地震（震度6強以上）が発生した場合、あなたのご自宅は倒壊や損傷などで大きな被害を受けると考えますか。【単数回答】



[Q3.-①] 「被害を受けると思う（どちらかといえばを含む）」理由

- 「築年数が経過しているから（55.6%）」が過半数で最も多い。「耐震・免振性能が不十分だから（40.6%）」「旧耐震基準のままで補強工事を行っていないから（21.0%）」と耐震・免振が十分でないことが続いた。
- 「住まいの地域でたびたび地震が発生しているから」が14.0%と、地震の発生によって被害を予感する方が一定数みられた。
- 「その他」では、「地盤が弱い、ゆるい」といった回答が挙げられた。

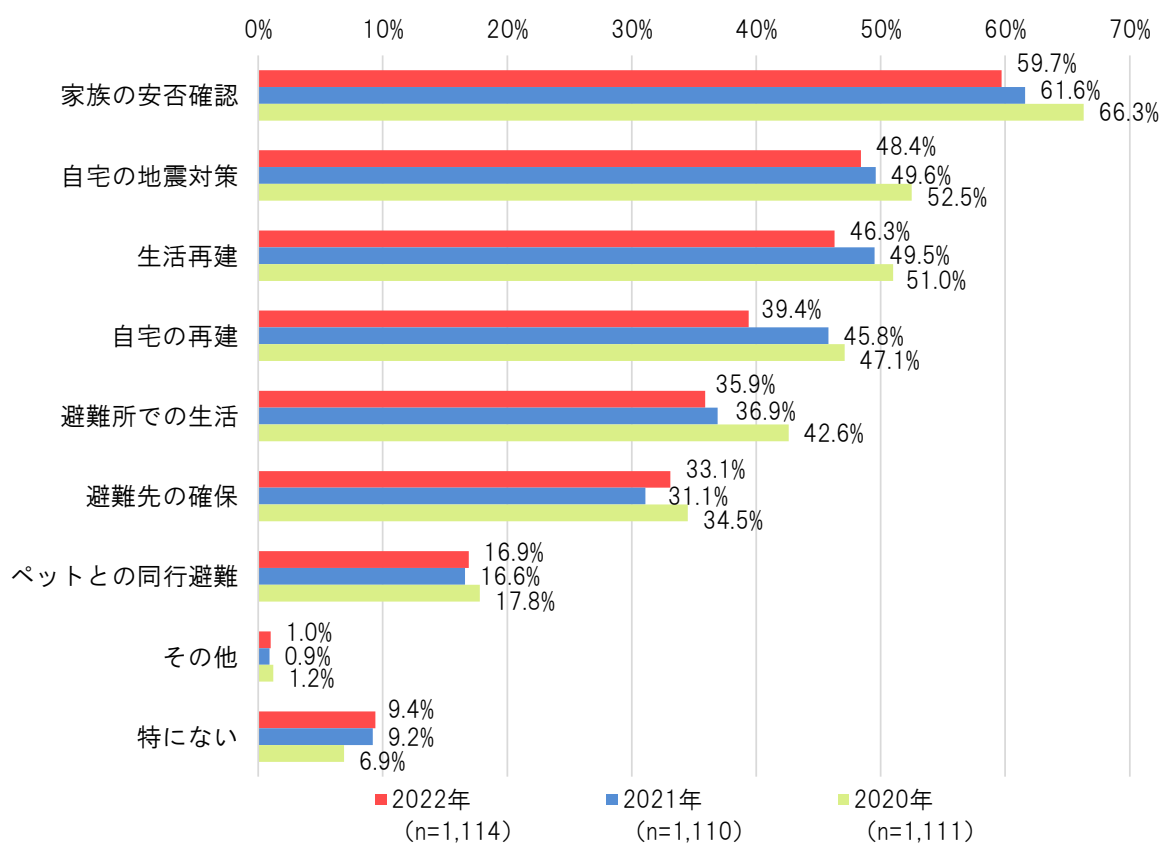
（Q3.で「被害を受けると思う（どちらかといえばを含む）」を選択した方におうかがいします）
Q4. そのように思う理由を教えてください。次の中からあてはまるものを《いくつでも》お選びください。【複数回答可】



【3】大地震（震度6強以上）発生時の不安について（Q4.参照）

- 「家族の安否確認（59.7%）」が過半数で最も多い。
- 「自宅の再建（39.4%）」より「生活再建（46.3%）」に不安を感じている方が多い。
- 「避難先の確保（33.1%）」「ペットとの同行避難（16.9%）」は、直近3年は横ばい。

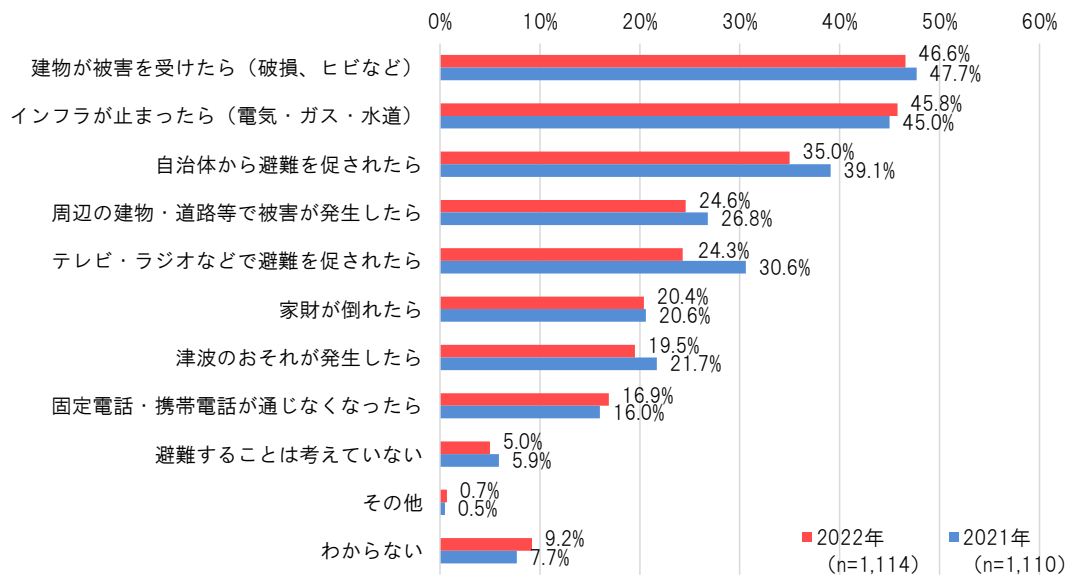
Q5. 大地震（震度6強以上）が発生した場合、あなたが不安に感じることはどれですか？
【複数回答可】



【4】大地震（震度6強以上）発生時に避難を考えるタイミングについて（Q6.参照）

- 「建物が被害を受けたら（破損、ヒビなど）」が46.6%で最多、次いで「インフラが止まったら（電気・ガス・水道）（45.8%）」となった。
- 「自治体から避難を促されたら」と回答した方は35.0%となった。

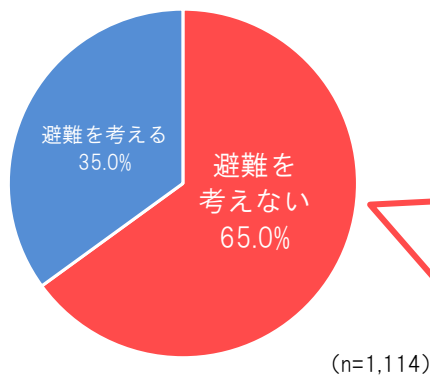
Q6. 大地震（震度6強以上）が発生した場合、避難を考えるのはどのタイミングですか？
【複数回答可】



【Q6.-①】「自治体から避難を促されたら」を選択していない方が避難を考えるタイミング

- 避難を考えるタイミングとして「自治体から避難を促されたら」を選択した方が35.0%、選択していない方が65.0%となった。
- 避難を考えるタイミングとして「自治体から避難を促されたら」を選択していない方は、「インフラが止まったら（電気・ガス・水道）（43.9%）」「建物が被害を受けたら（破損、ヒビなど）（43.0%）」の回答が4割強となり、実際に被害を受けたタイミングで避難を考える傾向がみえた。

自治体から避難を促されたら



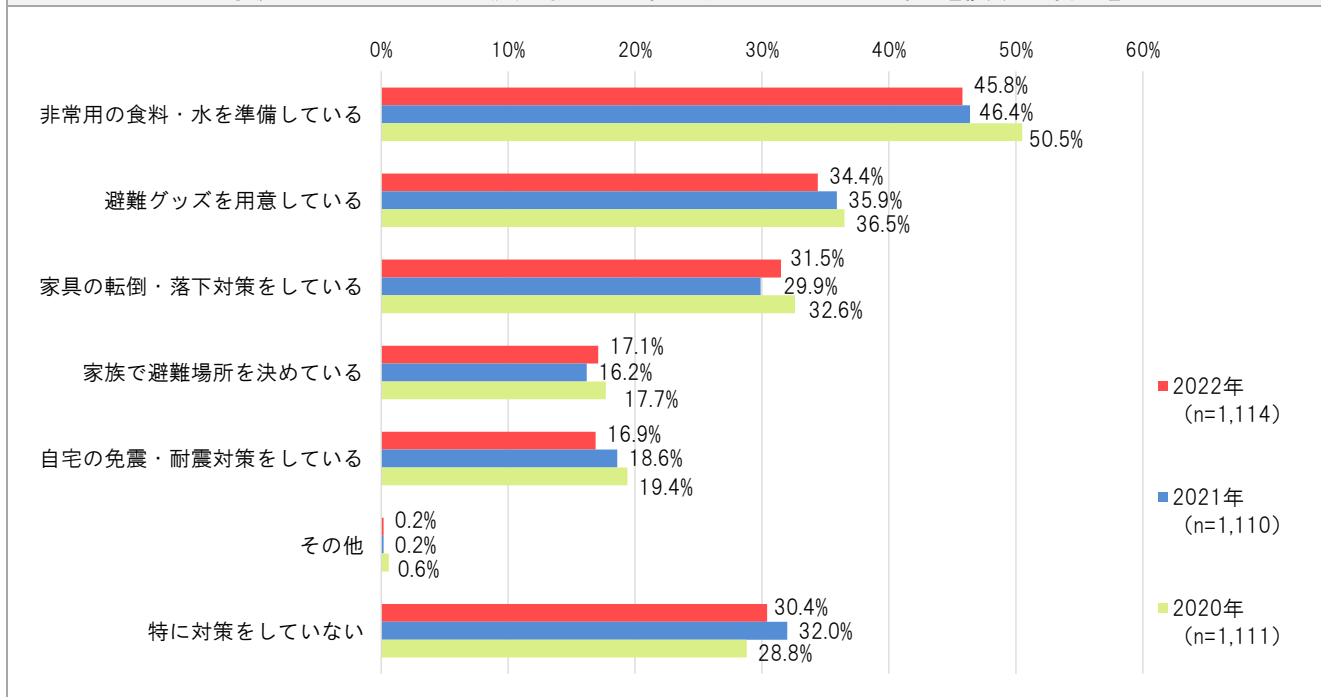
「自治体から避難を促されたら」を選択していない方が避難を考えるタイミング

	n	割合
インフラが止まったら（電気・ガス・水道）	724	43.9%
建物が被害を受けたら（破損、ヒビなど）		43.0%
家財が倒れたら		18.2%
周辺の建物・道路等で被害が発生したら		17.4%
津波のおそれが発生したら		14.4%
固定電話・携帯電話が通じなくなったら		12.8%
テレビ・ラジオなどで避難を促されたら		9.1%
その他		0.7%
避難することは考えていない		7.7%
わからない		14.1%

【5】 家庭で行っている地震・防災対策 (Q7.参照)

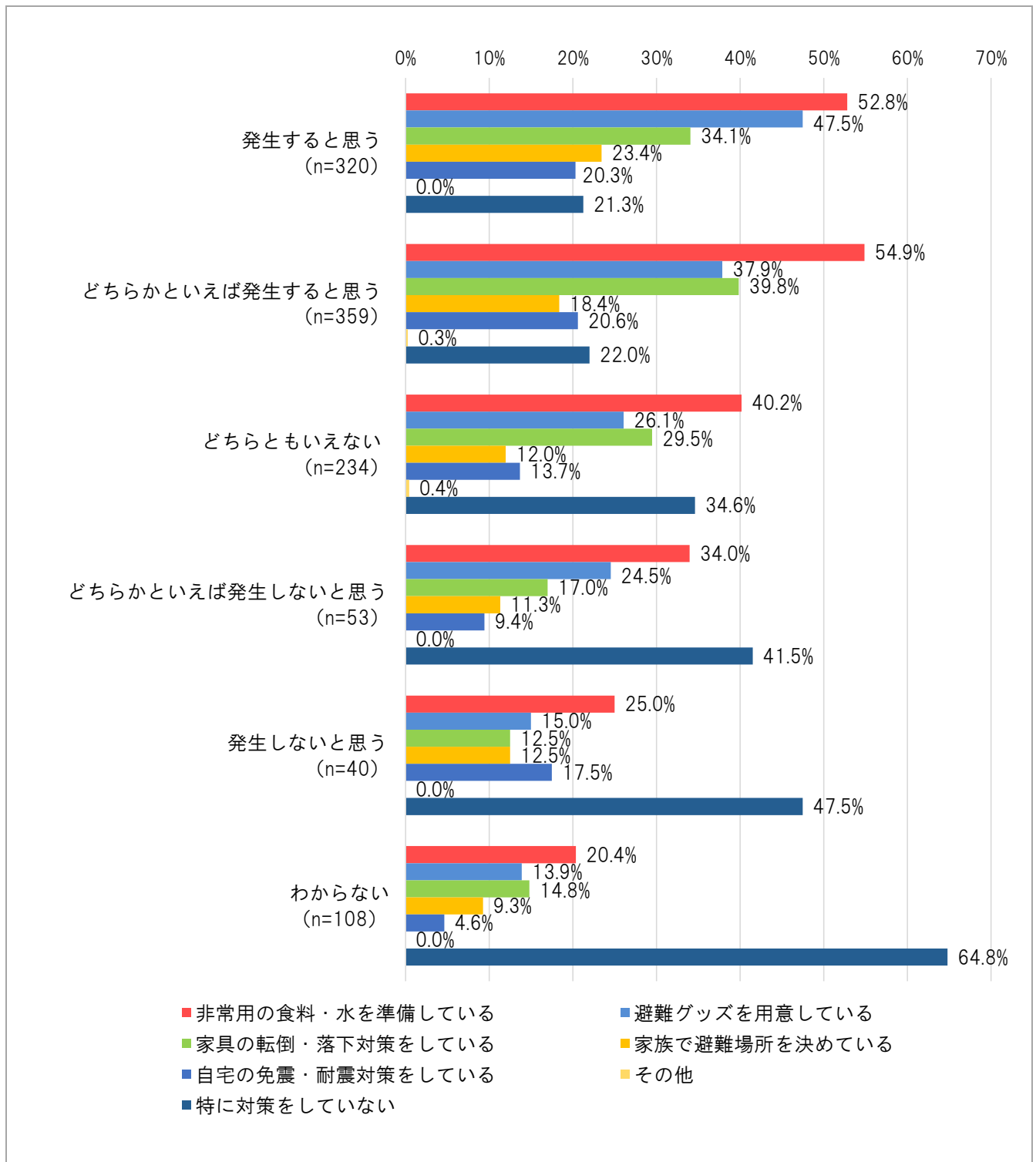
- 「非常用の食料・水を準備している」が45.8%で最も多い。
- 「特に対策をしていない」が30.4%。直近3年で横ばい。

Q7. あなたのご家庭で行っている地震・防災対策を教えてください。【複数回答可】



[Q7.-①]「大地震（震度6強以上）が発生する可能性」（Q2参照）×「地震・防災対策」の相関関係

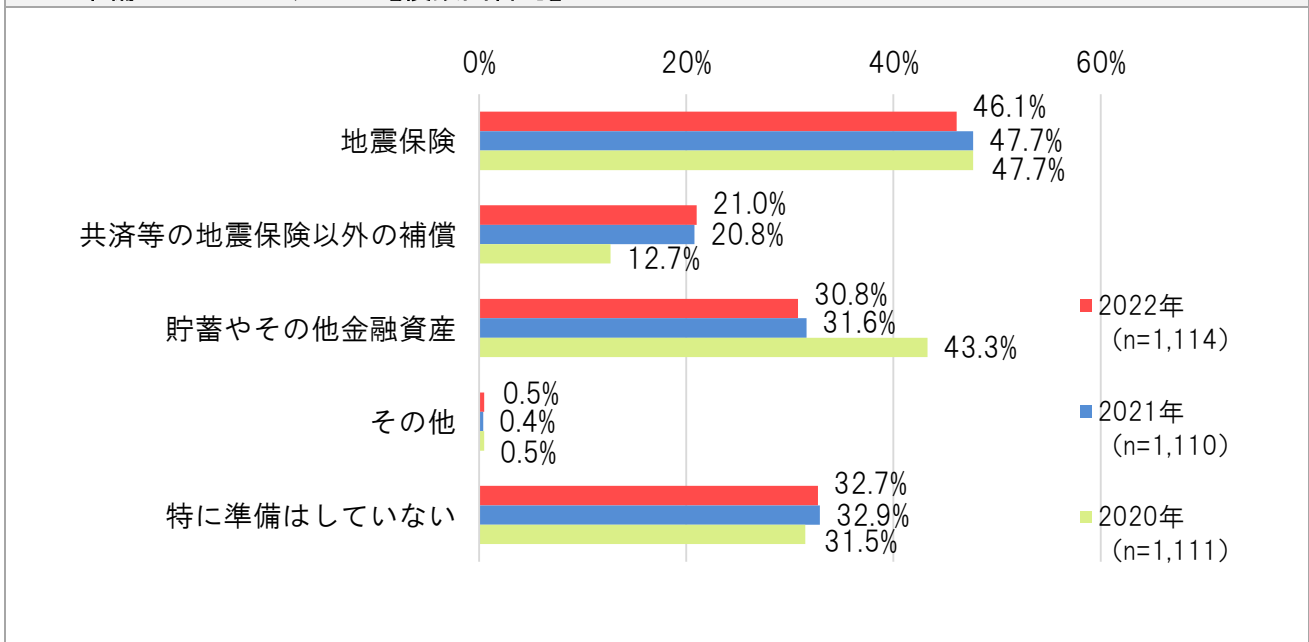
- 「大地震が発生すると思う（どちらかといえばを含む）」と回答した方のうち、2割超は「特に対策をしていない」。
- 「わからない」と回答した方のうち、64.8%は「特に対策をしていない」。



【6】 自宅が「地震」で被災した際の自宅再建費用の捻出方法（Q8. Q9. Q10 参照）

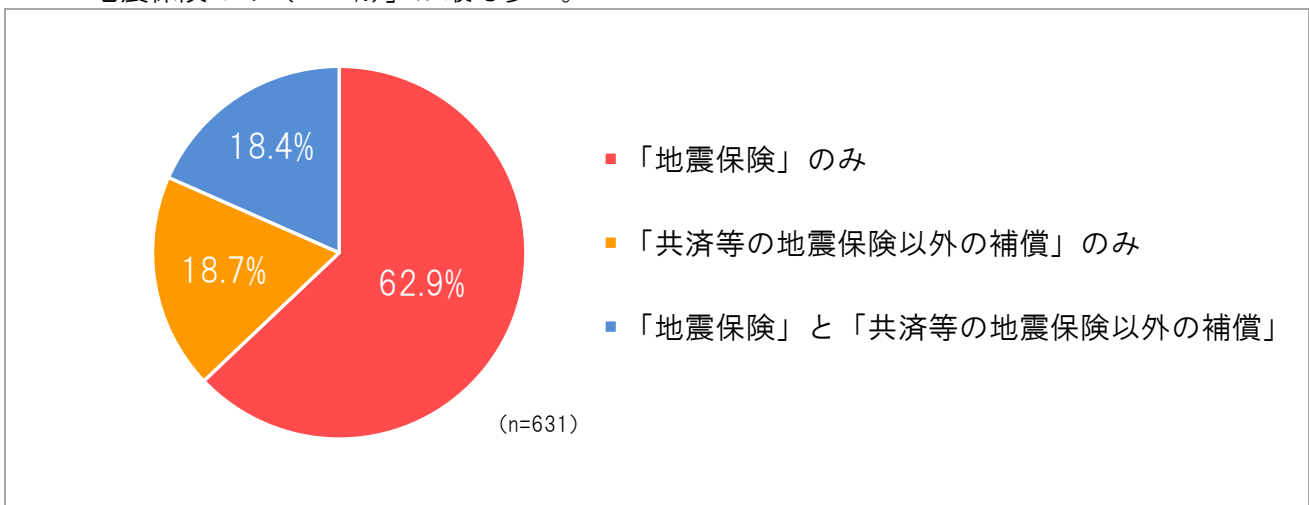
- 「地震保険」が46.1%で最も多い。「共済等の地震保険以外の補償（21.0%）」と「貯蓄やその他金融資産（30.8%）」は昨年から横ばい。
- 「地震保険（46.1%）」「共済等の地震保険以外の補償（21.0%）」を合わせると67.1%となった。
- 「特に準備はしていない」は32.7%。直近3年は横ばい。

Q8. ご自宅が「地震」で被災した際に、ご自宅を再建する費用の捻出方法としてどのような準備をしていますか？【複数回答可】



【Q8.-①】「地震保険」「共済等の地震保険以外の補償」いずれかを選択した方の割合

- 「地震保険のみ（62.9%）」が最も多い。



[Q8.-②] 年代別

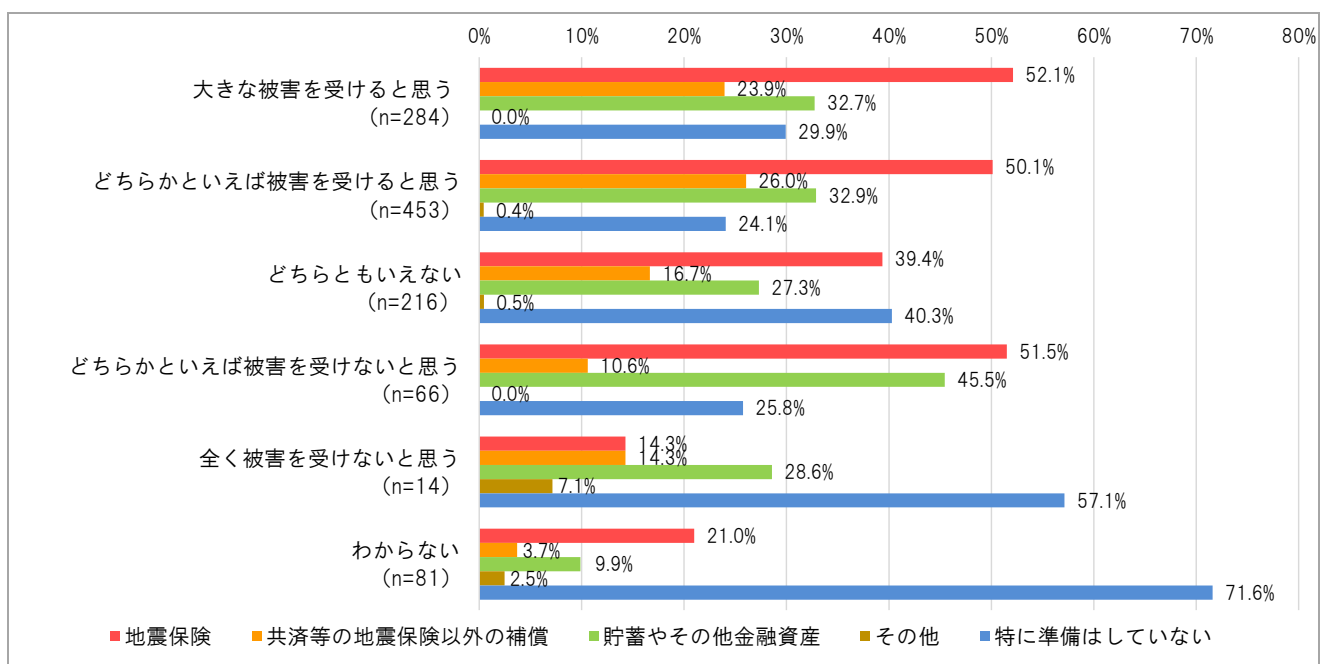
- 年代別に比較すると、20代では昨年と比べて「地震保険（40.8%）」で備える割合が3.9ポイント上昇、「共済等の地震保険以外の補償（36.8%）」では7.5ポイント上昇。

		20代		30代		40代		
		2022年	2021年 (順位)	2022年	2021年 (順位)	2022年	2021年 (順位)	
n		223	222	222	222	223	222	
第1位	地震保険	40.8%	36.9% (第2位)	地震保険	44.1%	46.4% (第1位)	地震保険	48.9% (第1位)
第2位	共済等の地震保険以外の補償	36.8%	29.3% (第3位)	貯蓄やその他金融資産	37.8%	36.0% (第2位)	特に準備はしていない	31.4% (第2位)
第3位	特に準備はしていない	29.6%	39.2% (第1位)	共済等の地震保険以外の補償	29.3%	26.6% (第3位)	貯蓄やその他金融資産	30.0% (第3位)

		50代		60代以上		
		2022年	2021年 (順位)	2022年	2021年 (順位)	
n		223	222	223	222	
第1位	地震保険	46.6%	51.4% (第1位)	地震保険	49.8%	53.2% (第1位)
第2位	特に準備はしていない	35.4%	27.9% (第3位)	貯蓄やその他金融資産	40.4%	36.9% (第2位)
第3位	貯蓄やその他金融資産	28.7%	40.1% (第2位)	特に準備はしていない	29.1%	29.7% (第3位)

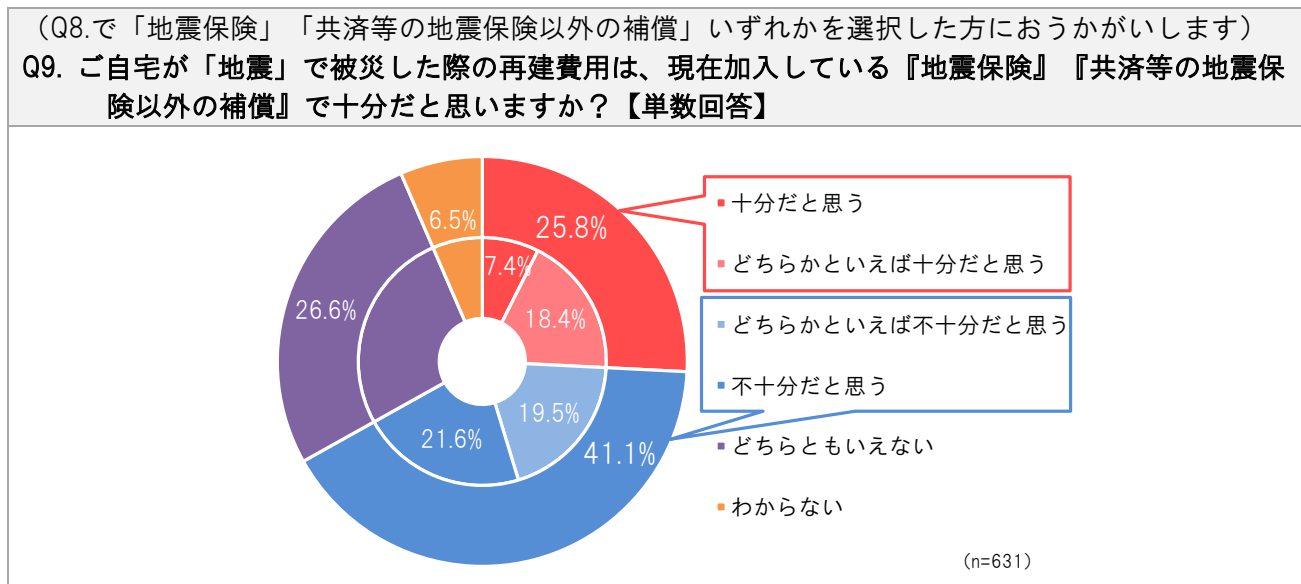
[Q8.-③] 「大地震（震度6強以上）で自宅が被害を受けるかどうか」（Q3参照）×「再建費用の捻出方法」の相関関係

- 「大きな被害を受けると思う（どちらかといえばを含む）」「どちらかといえば被害を受けないと思う」と回答した方は、地震保険、共済や、貯蓄等で備えている傾向がみえる。
- 「大きな被害を受けると思う」と回答した方のうち29.9%は「特に準備はしていない」。
- 「全く被害を受けないと思う」と回答した方の過半数は「特に準備はしていない（57.1%）」。



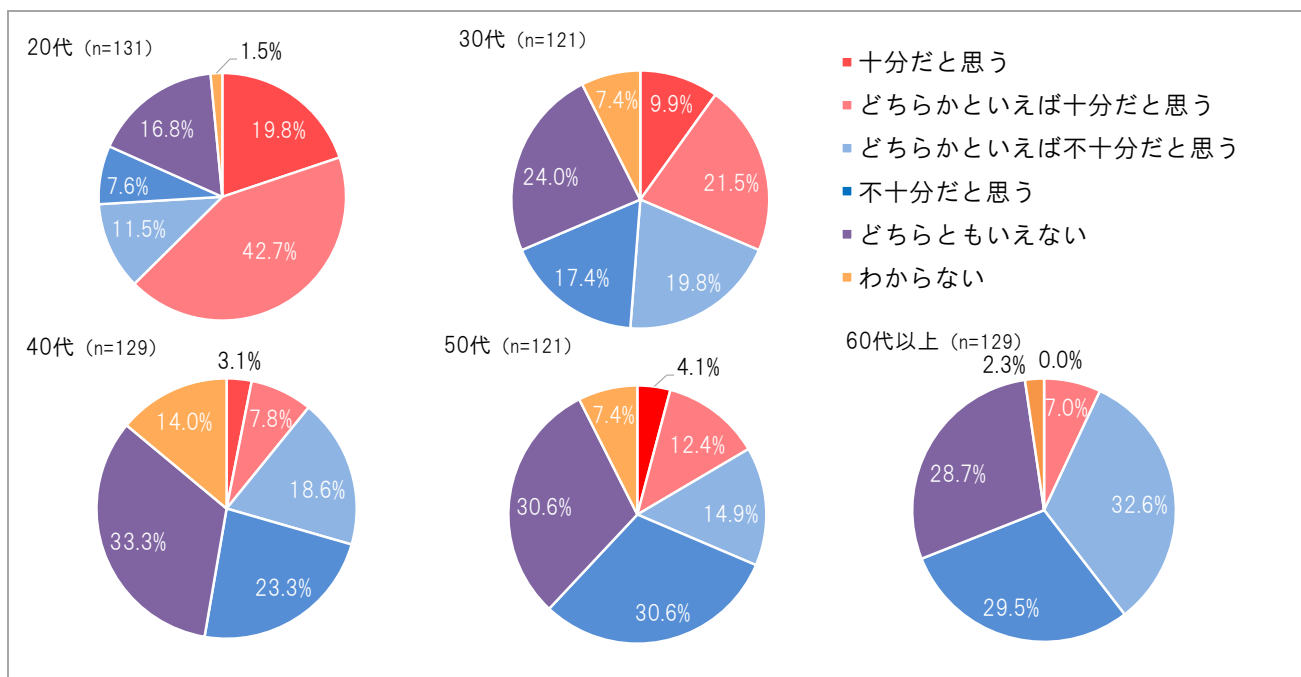
[Q9.] 被災時の自宅再建費用として、加入中の「地震保険や共済等の補償」は十分だと思うか

- 「不十分だと思う（どちらかといえばを含む）」が41.1%となり、「十分だと思う（どちらかといえばを含む）」の25.8%を上回った。



[Q9.-①] 年代別

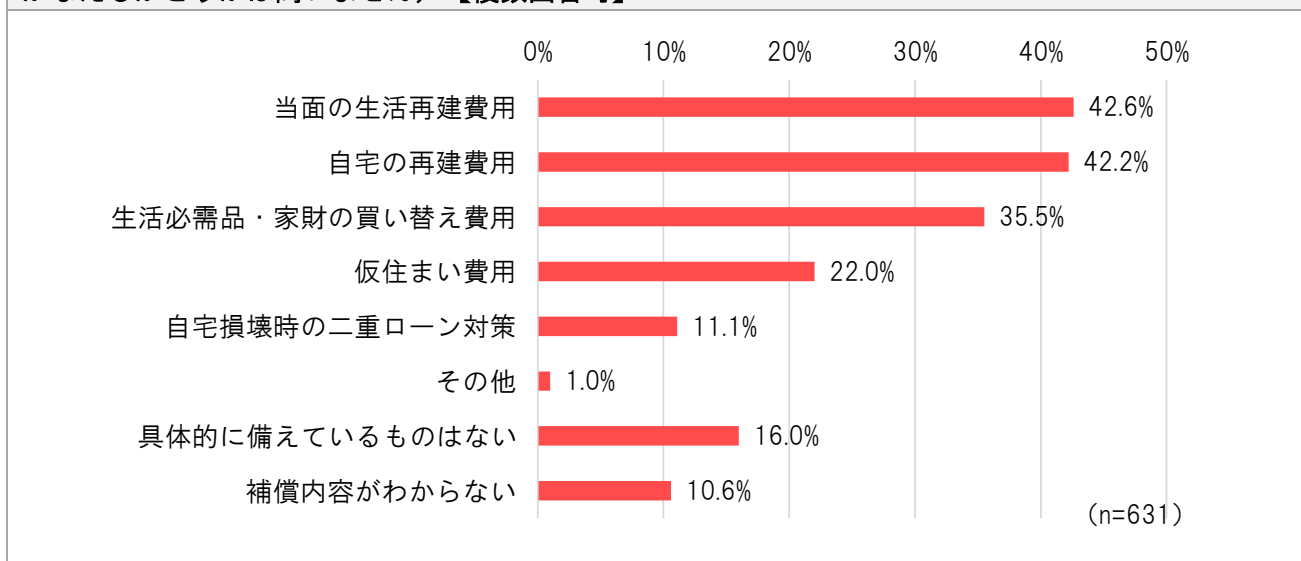
- 年代別に比較すると、「十分だと思う（どちらかといえばを含む）」の回答が最も多いのが20代で62.5%となった。年代が上がるにつれて「不十分だと思う（どちらかといえばを含む）」を回答した方の割合が多い傾向となり、60代以上では62.1%となった。



【Q10.】「地震保険」「共済等の地震保険以外の補償」で備えているもの

- 「当面の生活再建費用（42.6%）」「自宅の再建費用（42.2%）」がともに4割超で並んだ。次いで「生活必需品・家財の買い替え費用（35.5%）」となり、身の回りの生活に備えたいという傾向がみえた。
- 地震保険や共済等の補償に加入しているものの「補償内容がわからない」と回答した方が10.6%。

Q10. 現在加入している『地震保険』『共済等の地震保険以外の補償』で、あなたは何に備えていますか？次の中からあてはまるものを「いくつでも」お選びください。（契約をしている保険金額でまかなえるかどうかは問いません）【複数回答可】



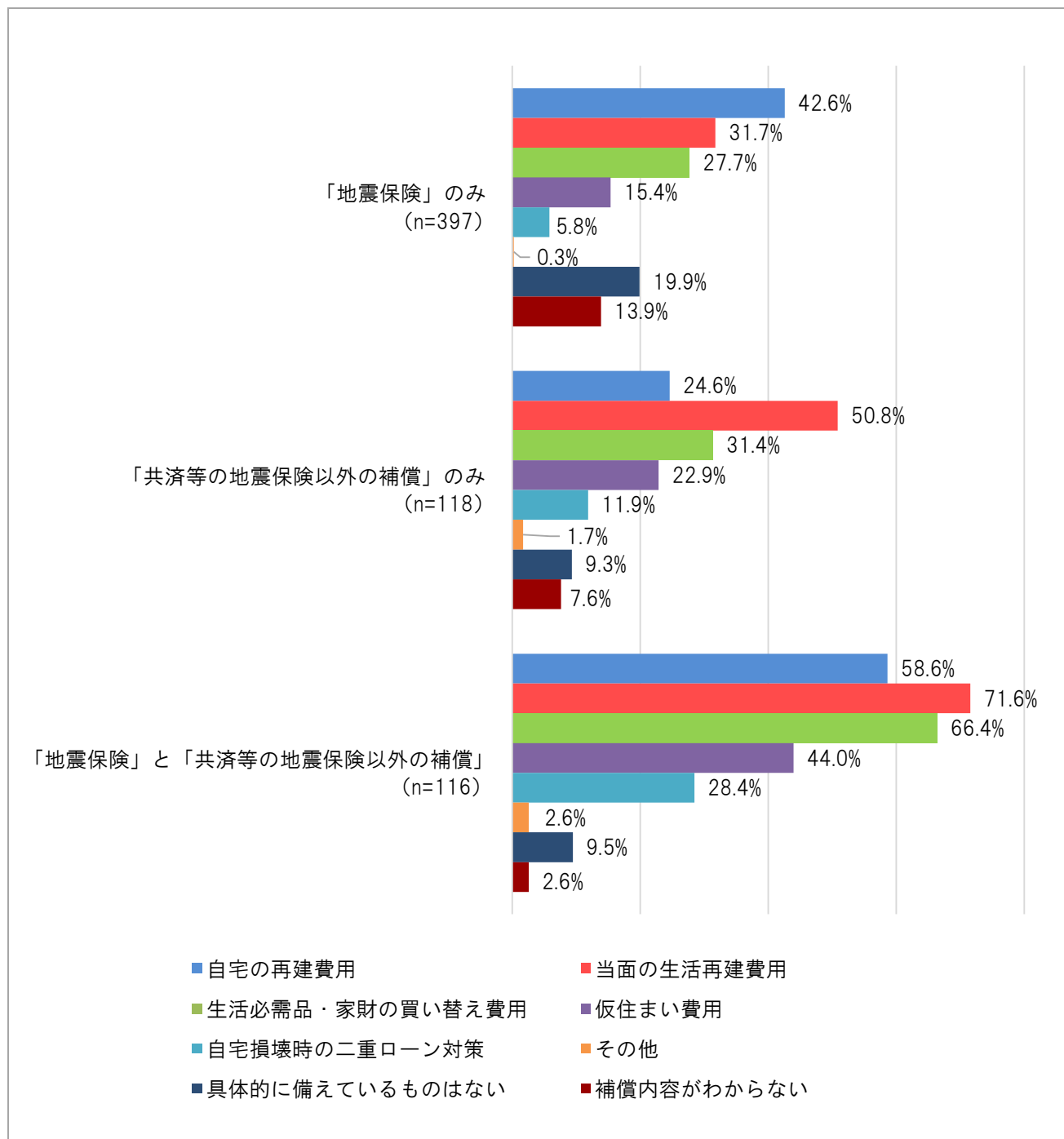
【Q10.-①】年代別

- 20代は「当面の生活再建費用（50.8%）」が最も多く、「生活必需品・家財の買い替え費用（45.0%）」が次いだ。
- 30代以降は「自宅の再建費用」が最も多く、次いで「当面の生活再建費用」「生活必需品・家財の買い替え費用」と同じ順位となった。
- 「具体的に備えているものはない」は、50代までは年代が上がるにつれ上昇する傾向がみられた。

	20代		30代		40代		50代		60代以上	
	n	割合	n	割合	n	割合	n	割合	n	割合
第1位	131	50.8%	121	47.9%	129	41.1%	121	38.8%	129	41.1%
第2位		45.0%		43.0%		37.2%		37.2%		37.2%
第3位		42.0%		38.8%		32.6%		29.8%		31.0%
		4.6%		8.3%		19.4%		25.6%		22.5%

[Q10.-②] 「地震保険」「共済等の地震保険以外の補償」加入状況別

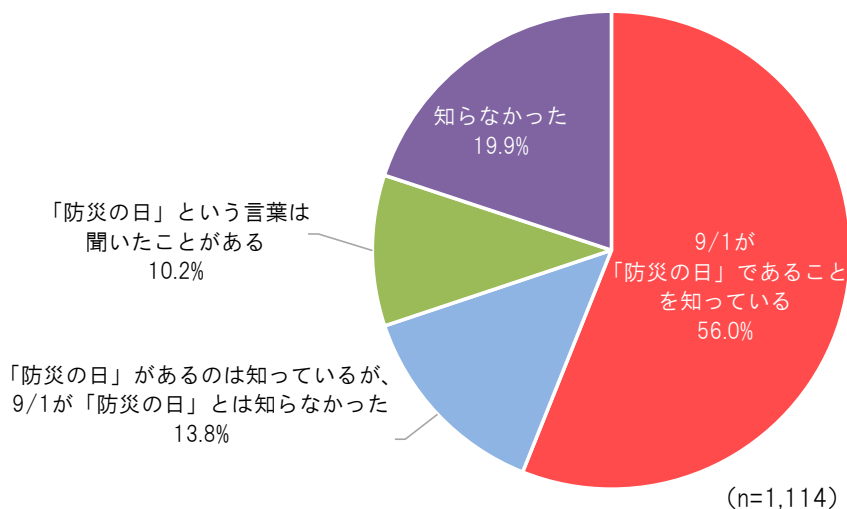
- 「地震保険」のみに加入している方は、「自宅の再建費用（42.6%）」が最も多い。
- 「共済等の地震保険以外の補償」のみに加入している方、両方に加入している方は「当面の生活再建費用」が最も多い。



【7】「防災の日」について (Q11.参照)

- 「9月1日が『防災の日』であることを知っている (56.0%) 」と過半数に「防災の日」の正確な認知があった。
- 「『防災の日』があるのは知っているが、9月1日が『防災の日』とは知らなかった (13.8%) 」 「『防災の日』という言葉は聞いたことがある (10.2%) 」を合計すると 80.0%の方が「防災の日」を知っているという結果となった。

Q11. 毎年9月1日は「防災の日」であることを知っていますか？【単数回答】



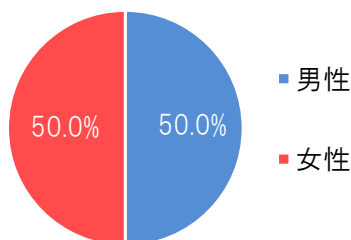
※参考「防災の日」について

毎年9月1日は「防災の日」とされ、この日を含む1週間が「防災週間」と定められています。これは国や地方公共団体、国民が災害についての認識を深め、災害への備えを強化することで災害による被害の軽減、防止を図ることを目的としています。

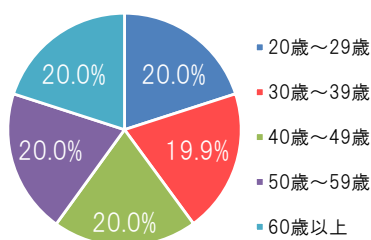
以上

■アンケート回答者属性

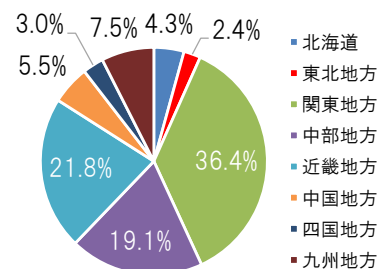
【1】男女別の割合 (n=1,114)



【2】年齢別の割合 (n=1,114)



【3】地域別の割合 (n=1,114)



※本調査結果の百分率表示は小数点第2位で四捨五入を行っているため、合計しても100%にならない場合があります。

※宮城県、福島県は調査期間において災害救助法適用地域のため対象外。